

	本の題名	発行	備考	内容	蔵書
1	暗殺の年輪	新潮文庫・1973	短篇集	武士の非情な掟の世界を、端正な文体と緻密な構成で描いた直木賞受賞作。他に晩年の北斎の暗澹たる心象を描く「くらい海」「黒い縄」「ただ一撃」「囧」を納めた記念碑的作品集。全5篇	○
2	又蔵の火	文春文庫・1974	短篇集	[負のロマン]と賛された初期の名品集。叔父と甥の壮絶な果たし合いの描写の迫力が語り継がれた表題作のほか、「帰郷」「さいころ無宿」「割れた月」「恐喝の」全5篇を納める。	○
3	闇の梯子	文春文庫・1974	短篇集	若い板木師・清次の元を昔の仲間が金の無心に訪れ、平穏な日常は触まれていく―表題作他「ちゃんと呼べ」「入れ墨」等、道を踏み外した男達の運命を描く初期の秀作全5篇を収める。	○
4	・雲奔る	文春文庫・1974	長編	薩摩討つべし。奥羽列藩を襲った、幕末狂乱の嵐の中を、討薩ただひとひとすじに奔走し倒れた、悲憤の志士雲井龍男。その短く激しい生涯を、熱気のこもった筆で描く異色の長歴史小説。	○
5	・喜多川歌麿女絵草紙	文春文庫・1975	長編	生涯美人画を描き「歌まくら」など枕絵の名作を残した歌麿は、好色漢の代名詞とされるが、愛妻家の一面もあった。独自の構成と手法で浮き彫りにされる人間・歌麿。	○
6	・霧の果て 神谷玄次郎捕物控	文春文庫・1975	長編	北の定町廻り同心・神谷玄次郎は役所きつての自堕落ぶりで評判は芳しくないが、事件解決には抜群の推理力を発揮する。そんな彼が抱える心の闇とは？藤沢版捕り物帳の傑作。	○
7	・義民が駆ける	文春文庫・1975	長編	ここには、たとえば義民佐倉宗五郎の明快さと直截さはない。醒めている者もあり、酔っている者もいた。中味は複雑で怪奇でさえある。このように一面的でない複雑さの総和が、むしろ歴史の事実である事を、この昔の”義民”の群れが示している。誤解されかねない”義民”という言葉を題名に入れた所以である。	○
8	冤罪	新潮文庫・1976	短篇集	勘定方相良彦兵衛は、藩金横領の罪で詰め腹を切られ、その日から娘の明乃も失踪した―。表題作をはじめ、士道小説9篇を収録。	○
9	暁のひかり	文春文庫・1976	短篇集	足の悪い娘の姿にふと正道を思いだす博打打ち―表題作の他「馬伍郎焼身」「おふく」「穴熊」「しぶとい連中」「冬の潮」を収録。市井の人々の哀切な息遣いを描く名品集。全6篇	○
10	逆軍の旗	文春文庫・1976	短篇集	座して滅ぶか、あるいは叛くか―戦国武将でひと際異彩を放ち、今なお謎に包まれた明智光秀を描く表題作品他、郷里の歴史に材をとった「上意改まる」「幻にあらず」等全4篇を収める。	○
11	竹光始末	新潮文庫・1976	短篇集	糊口をしのぐために刀を売り、竹光を腰に仕官の条件である上意討ちへと向かう豪気な男。表題作の他、武士の宿命を描いた傑作短篇集。全6編を収録。	○
12	・用心棒日月抄	新潮文庫・1976	連作長編	故あって人を斬り脱藩、刺客に追われながらの用心棒稼業。が、巷間を騒がす赤穂浪士の動きが又八郎の請負う仕事にも深い影を一。	○
13	・孤剣 用心棒日月抄	新潮文庫・1978	長編	お家の大事と密命を帯び、再び藩を出奔―用心棒稼業で身を養い、江戸の街を駆ける青江又八郎を次々襲う怪事件。シリーズ第二作。	○
14	・刺客 用心棒日月抄	新潮文庫・1983	長編	藩士の非違をさぐる陰の組織を抹殺するために放された刺客たちと対決する好漢青江又八郎。著者の代表作「用心棒シリーズ」第三作。	○
15	・凶刃 用心棒日月抄	新潮文庫・1989	長編	若かりし用心棒稼業の日々は今は遠い。青江又八郎の平穏な日常を破ったのは、密命を帯びての江戸出府下命だった。シリーズ第四作。	○

	本の題名	発行	備考	内容	蔵書
16	・闇の齒車	講談社文庫・1976	長編	川端にひっそりとある赤提灯で、互いに話すこともなく黙々と盃を重ねる4人の常連。30過ぎの浪人と危険なおいの遊び人。白髪の隠居と商家の若旦那。ここに4人を「押し込み強盗」に誘う謎の男が現れた。そして、それぞれに関わる女達。誰が操るのか、皮肉な定め人に引き込む、闇の齒車が回る。	○
17	・隠し剣孤影抄	文春文庫・1976	連作長編	剣客小説に新境地を開いた名品集。”隠し剣“シリーズ。剣鬼と化し破牢した夫のため捨て身の行動に出る人妻、これに翻弄される男を描く「隠し剣鬼の爪」など8篇を収録。	○
18	・隠し剣秋風抄	文春文庫・1976	連作長編	ロングセラー”隠し剣“シリーズ第二弾。凶々しいばかりに研ぎ澄まされた剣技と人としての弱さを併せ持つ主人公たち。粹な筆致の中に深い余韻を残す9篇。剣客小説の金字塔。	○
19	時雨のあと	新潮文庫・1977	短篇集	兄の立ち直りを心の支えに苦界に身を沈める妹みゆき。表題作のほか、江戸の市井に咲く小哀話を、繊麗に人情味豊かに描く傑作短篇集。全7話を収録。	○
20	・春秋山伏記	新潮文庫・1977	長編	羽黒山からやって来た若き山伏と村人とのユーモラスでエロティックな交流―荘内地方に伝わる風習を小説化した異色の時代長編。	○
21	・回天の門 上・下	文春文庫・1977	長編	山師、策士と呼ばれ、今なお誤解の内にある清河八郎は、官途へ一片の野心も持たない草莽の志士であり続けた。維新回天の夢を一途に追うた清冽な男の生涯を描く。	既読
22	闇の穴	新潮文庫・1978	短篇集	ゆらめく女の心を円熟の筆に描いた表題作。ほかに「木綿触れ」「閉ざされた口」「夜が軋む」等、時代小説短篇の絶品7篇を収録。	○
23	・消えた女 彫師伊之助捕物覚え	新潮文庫・1979	長編	親分の娘おようの行方をさぐる元岡っ引きの前で次々と起こる怪事件。その裏には材木商と役人の黒いつながりが…。シリーズ第一作。	○
24	・漆黒の霧の中で 彫師伊之助捕物覚え	新潮文庫・1980	長編	豎川に上がった不審な水死体の素姓を洗う伊之助の前に立ちふさがる第二、第三の殺人…。絶妙の大江戸ハードボイルド第二作！	○
25	・ささやく河 彫師伊之助捕物覚え	新潮文庫・1985	長編	島帰りの男が刺殺され、二十五年前の迷宮入り強盗事件を洗いなおす伊之助。意外な犯人と哀切極まりないその動機――― シリーズ第三作。	○
26	・闇の傀儡師・上	文春文庫・1978	長編	御家人をの身分を捨て、いまは筆耕稼業に精を出す鶴見源次郎。ひよんなことから斬り合いに出くわし、瀕死の傷をおった公儀隠密に、松平家へ宛てた密書を託される。紙片には「八は田と会す ご用心」の文字。幕府を恨み連綿と暗躍を続ける謎の徒党・八獄党が、老中田沼意次と何事か謀っている。元御家人でいまは筆耕稼業に精を出す鶴見源次郎は探索を依頼される。傑作伝奇小説。	○
27	・闇の傀儡師・下	文春文庫・1978		○	
28	・一茶	文春文庫・1978	長編	俳聖か、風狂か、凡人か。稀代の俳諧師、小林一茶。その素朴な作風とは裏腹に、貧しさの中をしたたかに生き抜いた男。底辺を生きた俳人の複雑な貌を描き出す。	○
29	代表作時代小説 昭和53年度/裏切り	東京文藝者・1978	短篇集	22篇の収録の内、1篇に藤沢周平の「裏切り」がある。	既読
30	長門守の陰謀	新潮文庫・1979	短篇集	荘内藩主世継ぎをめぐる暗闘として史実に残る長門守事件。その空前の危機を描く表題作他、「夢ぞ見し」「春の雪」「夕べの光」「遠い少女」など、初期短編の秀作全5篇を収録。	○
31	神隠し	新潮文庫・1979	短篇集	失踪した内儀が、三日後不意に戻った、一層凄艶さを増して――。女の魔性を描いた表題作をはじめ江戸庶民の哀歓を映す珠玉短篇集。全11篇	○

	本の題名	発行	備考	内容	蔵書
32	夢がたり大川端	光風社出版・1979	短篇集	新選代表作時代小説⑮ 12篇収録の内1篇に、藤沢周平の「暗い鏡」がある。	既読
33	はしり雨	新潮文庫・1980	短篇集	激しい雨の中、八幡さまの軒下に潜む盗っ人の前で繰り広げられる人間模様――。表題作のほか、江戸に生きる人々の哀歓を描く短篇集。全10篇	○
34	・春秋の檻 獄医立花登手控え	講談社文庫・1979	連作長編	江戸小伝馬町の牢獄に勤める青年医師・立花登。居候先の叔父の家で口うるさい叔母と驕慢な娘にこき使われている、島送りの船を待つ囚人からの頼みに耳を貸したことから、思わぬ危機に陥った――。起倒流柔術の妙技と鮮やかな推理で、獄舎に持ち込まれる事件を解く。新しい女囚人おきぬは、顔も身体つきもどこか垢抜けしていた。下男を手なづけ貢がせるしたたかさに登は入牢のきっかけの事件を探るが、どこか腑に落ちない。一方、従妹おちえの友人おあきが自分を訪ねて来たこと聞き、とある約束をしていた登は慌てるが――。青年獄医の成長と葛藤を描いた傑作連作集、全4巻。	○
35	・風雪の檻 獄医立花登手控え	講談社文庫・1981	連作長編		○
36	・愛憎の檻 獄医立花登手控え	講談社文庫・1982	連作長編		○
37	・人間の檻 獄医立花登手控え	講談社文庫・1983	連作長編		○
38	雪明かり	講談社文庫・1980	短篇集	貧しくも、明日への夢を持って健気に生きる女。深い心の闇を抱えて世間の片隅にうずくまる博徒。武家社会の終焉を予感する武士の概噴。立場、事情は様々でも、己の世界を懸命に生きる人々を、善人も悪人も優しく見つめる著者の目が全編を貫き、巧みな構成と鮮やかな結末とあいまった魅惑の短篇集。全8篇	○
39	橋ものがたり	新潮文庫・1980	短篇集	様々な人間が日々行き交う江戸の橋を舞台に演じられる、出会いと別れ。男女の喜怒哀楽の表情を瑞々しい筆致に描く傑作時代短篇集。全10篇	○
40	夜の橋	文春文庫・1981	短篇集	半年前に別れた女房が再婚話の相談で訪ねてくる――雪降る深川の夜の橋を舞台にすれ違う、男女の心の機微を描いた表題作、「一夢の敗北」「冬の足音」等全9篇を収録。	○
41	時雨みち	新潮文庫・1981	短篇集	捨てた女を妓楼に訪ねる男の肩に、時雨が降りかかる――。表題作ほか、人生のやるせなさを端正な文体で綴った傑作時代小説集。全8篇を収録。	○
42	霜の朝	新潮文庫・1981	短篇集	覇を競った紀伊国屋文左衛門の没落は、勝ち残った奈良茂の心に空洞を開けた――。表題作ほか、江戸町人の愛と孤独を綴る傑作集。全11篇を収録。	○
43	・密 謀・上	新潮文庫・1981	長編	天下分け目の関ヶ原決戦に、三成と密約がありながら上杉勢が参戦しなかったのはなぜか？ 歴史の謎を解明する話題の戦国ドラマ。	○
44	・密 謀・下	新潮文庫・1981			○
45	周平独言	中欧公論社・1981	エッセイ・自伝	「私のエッセイは炉辺の談話の如きものに過ぎない」と記す著者による初のエッセイ集。惹かれてやまない歴史上の人物、創作への意欲、故郷への思いが凝縮された一冊。	既読
46	父(ちゃん)と呼べ	文春文庫・1982	短篇集	藤沢周平短篇傑作選 巻二 市井小説集(一)で裏店住い、酔いどれの叩き大工の哀歓を描く市井小説の秀作のほか、「賽子無宿」など9篇を収録。	既読
47	・海鳴り 上・下	文藝春秋・1981	長編	心が通わない妻と放蕩息子の中で人生の空しさと焦りを感じる紙屋新兵衛は、薄幸の人妻おこうに想いを寄せ、闇に落ちていく。人生の陰影を描いた世話物の名品。	○
48	・よろずや平四郎活人剣・上	文春文庫・1983	連作長編	喧嘩、口論探し物その他、よろず仲裁つかまつり候。旗本の家を出奔し、裏店にすみついた神名平四郎の風変わりな商売。長屋暮らしの哀歓あふれる人生をえがく剣客小説。上巻12篇、下巻12篇を収録している。	○
49	・よろずや平四郎活人剣・下	文春文庫・1983			○

	本の題名	発行	備考	内容	蔵書
50	・白き瓶（小説 長塚節）	文春文庫・1985	長編	三十七年の生涯を旅と歌作に捧げ、妻子を持つことなく逝った長塚節。この歌人の生の輝きを、清冽な文章で綴った会心の鎮魂賦。著者と歌人・清水房雄氏が交わした書簡の一部を収録。	○
51	龍を見た男	新潮文庫・1984	短篇集	天に駆けのぼる龍の火柱のおかげで、あやうく遭難を免れた漁師の因縁――。無名の男女の仕合せを描く傑作時代小説8篇を収録している。	○
52	・市塵	講談社文庫・1983	長編	時代小説というのは内懐が深いから、この小説の場合は白石という評伝でもあり、人間を通した時代小説でもある様な小説が出来上がりました。ついでに言えば往々にして歴史小説は時代小説より少し上にある様に言われることもあるが、私はそうは思わない。時代小説は虚構を主とし、歴史小説は事実を主として書くのだが、虚構が事実に劣るとするのは偏見でしょう。書く方から言えば、虚構の物語を作る方が難しい。（常盤新平との対談より）	○
53	冬の潮 藤沢周平短篇傑作選（第三巻）	文藝春秋・1983		この作家の十年――。世評高い秀作短篇を、主題別に四巻集成。語りすぎず、しかし黙さず、端正にして緻密な構成。人生通の大人の風格。時代小説のほんとうの面白さがここにある！ 時雨のあと・冬の潮・しぶとい連中・秘密・意気地なし・暁のひかり・石を抱く・閉ざされた口・狂気・荒れ野・春の雪・遠い少女の12篇と巻末エッセイ市井の人々（二）	○
54	決闘の辻	講談社文庫・1985	短篇集	死闘を賭して得た剣名、生を捨てて得た剣技、誰にも負けるわけにはいかない――。宮本武蔵の最後の戦い、神子上典膳の師の後継を争う決闘。歴史に名を残す名剣客の決闘シーンを、剣の一振り、刃光の閃きまでもリアルに描く剣客小説。全5篇。	○
55	花のあと	文春文庫・1985	短篇集	娘盛りを剣の道に生きたお以登にも、ひそかに想う相手があった。手合わせしてあえなく打ち負かされた孫四郎という部屋住みの剣士である。表題作のほか時代小説の佳品を精選。全8篇。	○
56	・蟬しぐれ	文春文庫・1986	長編	清流と木立にかこまれた城下組屋敷。淡い恋心、友情、そして忍苦。苛烈な運命に翻弄されながら成長してゆく少年藩士の姿をゆたかな光の中に描いて、愛情をさそう傑作長編。	○
57	小説の周辺	文春文庫・1986	随筆集	小説の第一人者である著者が、取材のこぼれ話から自作の背景、転機となった作品について吐露した滋味あふれる最新随筆集。郷里の風景や人情、教え子との交流などを端正につづる。	○
58	・本所しぐれ町物語	新潮文庫・1987	連作長編	川や堀割からふと水が匂う江戸庶民の町――。表通りの商人や裏通りの職人など、市井の人々の微妙な心の揺れを味わい深く描く連作長編。全12篇を収録	○
59	・早春 その他	文春文庫・1987	短篇	初老の勤め人の孤独と寂寥を描いた唯一の現代小説「早春」。加えて時代小説の名品二篇に、随想・エッセイを四篇を収める。作家晩年の心境をうつしだす静謐にして透明な文章！ 全6篇	○
60	たそがれ清兵衛	新潮文庫・1988	連作短編	その風体性格ゆえに、普段は侮られがちな侍たちの、意外な活躍！ 表題作はじめ全8篇を収める。痛快で情味あふれる異色連作集。全8篇を収録。	○
61	・風の果て・上	文春文庫・1988	長編	主席家老・桑山又左衛門の許に、ある日果たし状が届く。恥を知る気持ちが残っているなら、決闘に応じよ、と。相手は野瀬市之丞。同門・片貝道場の友であり、未だ娶らず禄を食まず、厄介叔父と呼ばれる五十男である。「ばかものが」戸惑いつつも、又左衛門は過去を振り返っていく――。運命の非情な餐宴を描く、武家小説の傑作！	○
62	・風の果て・下	文春文庫・1988	長編		○

	本の題名	発行	備考	内容	蔵書
63	麦屋町屋下がり	新潮文庫・1988	短篇集	藩中一、二を競い合う剣の遣い手が、奇しき運命の縁に結ばれて対峙する。男の闘いを緊密な構成と乾いた抒情で描き出す表題名品など全4篇。この作家、円熟期えりぬきの秀作集である。	○
64	・三屋清左衛門残日録	文春文庫・1989	連作長編	家督をゆずり隠居の身となった清左衛門の日記「残日録」。悔いと寂寥感にさいなまれつつ、なお命をいとおしみ、力尽くす男の残された日々の輝きを描き、共感を呼ぶ連作長編。全12篇	○
65	・秘太刀馬の骨	文春文庫・1990	長編	北国の藩。筆頭家老暗殺につかわれた幻の剣「馬の骨」。下手人不明のまま六年過ぎ、密命をおびた藩士と剣士は連れ立って謎の秘剣を捜し歩く。オムニバスによる異色作。	○
66	大江戸指名手配/暁のひかり	新潮社・1990	短篇集	時代小説の楽しみ⑥ 藤沢周平の暁のひかりを掲載	既読
67	深川江戸散歩	新潮社・1990	写真集	深川を知らずして、江戸は語れない。「深川の四季」として写真集。私の「深川絵図」：藤沢周平「江戸深川の町再現」として地図・写真で再現している。	○
68	玄鳥	文春文庫・1991	短篇集	武家の妻の淡い恋心をかえらぬ燕に託して描く「玄鳥」をはじめ、円熟期の最上の果実と称賛された名品集である。他に「浦島」「三月の鮠」「闇討ち」「鷓鴣(みそざい)」を収める。全5篇。	○
69	潮田伝五郎置文	光国社出版・1991	短篇集	家が十七石の軽率の伝五郎は、二つ年上の井沢・三百石の跡取りに、粗末な衣服を侮られた。道場帰りに真剣勝負を挑み、仲裁に入った仲間の姉七重に心を奪われる。――表題作ほか8篇を収めた短編集。	既読
70	・天保悪党伝	新潮文庫・1992	連作長編	天保年間の江戸の町に、悪だくみに長けるが、憎めない連中がいた。世話講談「天保六花撰」に題材を得た、痛快無比の異色連作長編！ 全6篇を収録。	○
71	雲のかかる峰/逆軍の旗	講談社・1992	短篇集	歴史小説名作館第5巻 全12巻からなり、藤沢周平の逆軍の旗を掲載。	既読
72	・漆の実のみのる国 上・下	文春文庫・1993	長編	貧窮のどん底にあえぐ米沢藩。鷹山は自ら一汁一菜をもち、藩政改革に心血をそそぐ。無私に殉じた人々の類なくうつくしいこの物語は、作者が最後の命をもやした名篇。	○
73	夜消える	文春文庫・1994	短篇集	酒びたりの父をかかえる娘と母、市井のどこにでもある小さな不幸と厄介ごと。表題作のほか「にがい再会」「永代橋」「踊る手」「消息」「初つばめ」「遠ざかる声」など市井短篇小説集。全7篇	○
74	藤沢周平 半生の記	文春文庫・1994	エッセイ・自伝	自身を語ることが稀だった含羞の作家が、初めて筆をとった来しかたの記。郷里山形、生家と家族、学校と恩師、戦中戦後、そして闘病。詳細な年譜も付した藤沢文学の源泉を語る一冊。	○
75	時代小説最前線 1 岡安家の犬	新潮社・1994	短篇集	17篇収録の内、1篇が藤沢周平の「岡安家の犬」である。	既読
76	ふるさとへ廻る六部は	新潮文庫・1995	エッセイ・自伝	「ふるさとへ廻る六部(巡礼)は気の弱り」これは、山形出身の著者が初めて青森、秋田、岩手へ旅した時の気持ちを、やや自嘲的に表現した古川柳。この旅は東北人である自分の根を再確認する旅だった。庄内地方への郷愁、変貌する故郷への喪失感、時代小説へのこだわりと自負、創作の秘密、そして身辺・自伝随想等を収めた文庫オリジナル・エッセイ集。	○
77	日暮れ竹河岸	文春文庫・1996	短篇集	筆者秘愛の浮世絵から発想を得て紡ぎだされた短編名品集。市井のひとびとの、陰翳ゆたかな人生絵図を掌の小品に仕上げた極上品、全19篇を収録。生前最後の作品集。	○
78	江戸おんな絵姿十二景	文芸春秋・1996	短篇集	1996年刊行の「日暮れ竹河岸」をもとに、十二枚の浮世絵に合わせた短編と、その浮世絵の解説がつく。	既読

	本の題名	発行	備考	内容	蔵書
79	藤沢周平の世界	文春文庫・1997		向井敏・丸谷才一・常盤新平・井上ひさし・篠山三郎ら26人による、選んだ作品についての論評を繰り広げている。暗殺の年輪・又蔵の火・用心棒日月抄・一茶・橋ものがたり・海鳴り・風の果て・蝉しぐれ・三屋清左衛門残日録・よろずや平四郎活人剣など18作品と11篇のエッセイによる。篠山三郎との対談・インタビュー・米沢と私の歴史小説など藤沢周平のエッセイがある。	○
80	静かな木	新潮文庫・1998	短篇集	藩の勘定方を退いてはや五年、孫左衛門も後二年で還暦を迎える。城下の寺に立つ櫓の大木に心惹かれた彼は、見上げる度に我が身を重ね合わせ、平穩であるべき老境の日々を思い描いていた。ところが――藤沢周平最晩年の境地を伝える3篇。	○
81	藤沢周平―負を生きる物語	集英社新書・2002/高橋敏夫		惜しんでも余りあるこの作家。その生涯と作品、魅力のすべてを語りつくす愛読者必携の藤沢周平文芸読本。弔辞から全作品リスト、未公開写真までを収録した。	○
82	藤沢周平のすべて	文春文庫・2001		惜しんでも余りあるこの作家。その生涯と作品、魅力のすべてを語りつくす愛読者必携の藤沢周平文芸読本。弔辞から全作品リスト、未公開写真までを収録した。	○
83	藤沢周平 心の風景	新潮社・2005		作家の故郷であり、作品の舞台・海坂藩のモデルでもある山形県鶴岡。作家により作品へと昇華され、読者を惹きつける原風景が、ここにはまだ息づいている。作品に惹かれつつ、ヴィジュアルにその世界を追っている。古写真を多く入れて、海坂藩が今でもあるような、そんな感じにさせる。	○
84	別冊太陽 藤沢周平	平凡社・2006	写真集	人間の哀歓と過ぎし世のぬくもりを描いた小説家――”小説職人”のように、ただひたすら藤沢周平は時代小説を書く続け、理想の郷をつくり、普遍の人間像を綴った。――そんな藤沢文学の軌跡をたどる。	○
85	藤沢周平の世界 02	朝日新聞社・2006	写真集	朝日ビジュアルシリーズ 週刊「藤沢周平の世界」について―藤沢周平が残した作品の内、代表的なものを取り上げ、ビジュアルな30冊に編集したものである。用心棒日月抄シリーズ、浪人・又八郎、腕におぼえあり！ 作家・杉本章子が藤沢周平の人となりから、その胸中を読み解く。	○
86	藤沢周平の世界 04	朝日新聞社・2006	写真集	朝日ビジュアルシリーズ 週刊「藤沢周平の世界」について―藤沢周平が残した作品の内、代表的なものを取り上げ、ビジュアルな30冊に編集したものである。たそがれ清兵衛―さえない藩士の意外な剣豪、作家・立松和平が「たそがれ清兵衛」の物語が生まれる瑞諸を読み解く。	○
87	藤沢周平の世界 05	朝日新聞社・2006	写真集	朝日ビジュアルシリーズ 週刊「藤沢周平の世界」について―藤沢周平が残した作品の内、代表的なものを取り上げ、ビジュアルな30冊に編集したものである。隠し剣弧影抄・隠し剣秋風抄―十七人の「武士の矜持」、「隠し剣」とは何か、十七の剣法とその遣い手たちを描いたこのシリーズには深い暗喩が隠されていた。「隠し剣虎の爪」をもとに、作家・出久根達郎がその秘密に迫る。	○
88	藤沢周平の世界 06	朝日新聞社・2006	写真集	朝日ビジュアルシリーズ 週刊「藤沢周平の世界」について―藤沢周平が残した作品の内、代表的なものを取り上げ、ビジュアルな30冊に編集したものである。彫師伊之助捕物覚え・江戸の間に挑む元岡っ引―このシリーズは、藤沢作品には珍しいハードボイルドと銘打たれているが、作家・宇江佐真理が、伊之助とおまの間に流れる大人の恋情を軸に、この作品を読み解く。	○

	本の題名	発行	備考	内容	蔵書
89	藤沢周平の世界 07	朝日新聞社・2006	写真集	朝日ビジュアルシリーズ 週刊「藤沢周平の世界」について―藤沢周平が残した作品の内、代表的なものを取り上げ、ビジュアルな30冊に編集したものである。海鳴り―許されざる恋の果てに、エッセイストの岸本葉子が女性ならではの視点で読み解く。	○
90	藤沢周平の世界 08	朝日新聞社・2007	写真集	朝日ビジュアルシリーズ 週刊「藤沢周平の世界」について―藤沢周平が残した作品の内、代表的なものを取り上げ、ビジュアルな30冊に編集したものである。日立馬の骨・秘剣の継承者を探せ!―秘剣・隠し剣と言われるものを藤沢周平はいくつも書いてきた。主人公が秘剣の遣い手を探せと命じられることが物語の発端となる、秘剣探しの軌跡に、藤沢周平はどんな思いを込めたのか―作家・堀江敏幸が読み解く。	○
91	藤沢周平の世界 09	朝日新聞社・2007	写真集	朝日ビジュアルシリーズ 週刊「藤沢周平の世界」について―藤沢周平が残した作品の内、代表的なものを取り上げ、ビジュアルな30冊に編集したものである。風の果て・執政に上りつめた男の孤独―藤沢周平の小説を愛するあまり、「人生の蓄え」としてとっておいた「風の果て」を読む日が来た、読後の作家・あさのあつこに、幸福感と喪失感が訪れる。	○
92	藤沢周平の世界 10	朝日新聞社・2007	写真集	朝日ビジュアルシリーズ 週刊「藤沢周平の世界」について―藤沢周平が残した作品の内、代表的なものを取り上げ、ビジュアルな30冊に編集したものである。よろずや平四郎活人剣―もめごと仲裁つかまり候、颯爽とした主人公が活躍する痛快劇でありながら、それにとどまらない本作の魅力を、作家・杉本章子が読み解く。	○
93	藤沢周平の世界 11	朝日新聞社・2007	写真集	朝日ビジュアルシリーズ 週刊「藤沢周平の世界」について―藤沢周平が残した作品の内、代表的なものを取り上げ、ビジュアルな30冊に編集したものである。麦屋町屋下がり―白刃きらめく「真昼の決闘」、藤沢作品にはその基調に二つの光と闇がある。「麦屋町屋下がり」をもとに、藤沢文学を構成する要素を、ノンフィクション作家・後藤正治が考察する。	○
94	藤沢周平の世界 12	朝日新聞社・2007	写真集	朝日ビジュアルシリーズ 週刊「藤沢周平の世界」について―藤沢周平が残した作品の内、代表的なものを取り上げ、ビジュアルな30冊に編集したものである。獄医立花登手控えシリーズ、春秋の檻/風雪の檻/愛憎の檻/人間の檻―立花登という快男児には、藤沢周平の人柄がにじみ出ている。「正しさ」の尊さを知りながら、それを決して声高には語らない立花登に、作家・重松清は、藤沢周平作品に共通する人間観を見いだす。	○
95	藤沢周平の世界 13	朝日新聞社・2007	写真集	朝日ビジュアルシリーズ 週刊「藤沢周平の世界」について―藤沢周平が残した作品の内、代表的なものを取り上げ、ビジュアルな30冊に編集したものである。本所しぐれ町物語/橋ものがたり・出会いと別れの交差する街角―江戸の人々を優しく、哀しく、人情味溢れた絶妙な筆で描く時代小説家、宇江佐真理が、藤沢の珠玉の短篇集「本所しぐれ町物語」と「橋ものがたり」を読む。	○
96	藤沢周平の世界 14	朝日新聞社・2007	写真集	朝日ビジュアルシリーズ 週刊「藤沢周平の世界」について―藤沢周平が残した作品の内、代表的なものを取り上げ、ビジュアルな30冊に編集したものである。一茶・生涯二万句、風狂の俳諧師―一茶という俳人は、いくつかの著名な句のイメージによって語られてきた。藤沢周平の描きとめたかった一茶像とは―詩人で作家の平出隆が読み解く。	○

	本の題名	発行	備考	内容	蔵書
97	藤沢周平の世界 15	朝日新聞社・2007	写真集	朝日ビジュアルシリーズ 週刊「藤沢周平の世界」について―藤沢周平が残した作品の内、代表的なものを取り上げ、ビジュアルな30冊に編集したものである。天保悪党伝―闇に華咲く色と悪、藤沢周平の描く「寂しい悪、の物語」の魅力を、作家でミュージシャンの町田康が読み明かす。	○
98	藤沢周平の世界 16	朝日新聞社・2007	写真集	朝日ビジュアルシリーズ 週刊「藤沢周平の世界」について―藤沢周平が残した作品の内、代表的なものを取り上げ、ビジュアルな30冊に編集したものである。市井もの短篇：暁のひかり・時雨みち―藤沢周平の市井もの短篇、その描写の魅力を作家・山本一力が読み解く。	○
99	藤沢周平の世界 17	朝日新聞社・2007	写真集	朝日ビジュアルシリーズ 週刊「藤沢周平の世界」について―藤沢周平が残した作品の内、代表的なものを取り上げ、ビジュアルな30冊に編集したものである。武家もの短篇：暗殺の年輪・竹光始末・又蔵の火・玄鳥・花のあと―下級武士の哀切を作家・評論家の夏川夏央がひも解く。	○
100	藤沢周平の世界 18	朝日新聞社・2007	写真集	朝日ビジュアルシリーズ 週刊「藤沢周平の世界」について―藤沢周平が残した作品の内、代表的なものを取り上げ、ビジュアルな30冊に編集したものである。武家もの短篇：暗殺の年輪・竹光始末・又蔵の火・玄鳥・花のあと―下級武士の哀切を作家・評論家の夏川夏央がひも解く。	○
101	藤沢周平の世界 19	朝日新聞社・2007	写真集	朝日ビジュアルシリーズ 週刊「藤沢周平の世界」について―藤沢周平が残した作品の内、代表的なものを取り上げ、ビジュアルな30冊に編集したものである。闇の傀儡師・謎の八獄党を追え―綿密な歴史考察を下敷きに、痛快な歴史エンターテイメントとして構築された「闇の傀儡師」。たんなる時代小説、歴史小説という枠を超えたこの対策を、歴史学者・色川大吉ははどう読んだか。	○
102	藤沢周平の世界 20	朝日新聞社・2007	写真集	朝日ビジュアルシリーズ 週刊「藤沢周平の世界」について―藤沢周平が残した作品の内、代表的なものを取り上げ、ビジュアルな30冊に編集したものである。決闘の辻／藤沢版新剣客伝：武蔵、宗矩が斬る！―宮本武蔵や柳生宗矩など、五人の剣客を取り上げたこの作品は、非情な剣豪の世界に、藤沢周平らしい「情」を持ち込んだ、深い味わいのある作品となっている。作家の小杉健治が読み明かす。	○
103	藤沢周平の世界 21	朝日新聞社・2007	写真集	朝日ビジュアルシリーズ 週刊「藤沢周平の世界」について―藤沢周平が残した作品の内、代表的なものを取り上げ、ビジュアルな30冊に編集したものである。回天の門・清川八郎、悲運の生涯―草莽の可能性信じ、自らも草莽として命を懸けた清川八郎。藤沢周平が解き明かした清川八郎の悲劇を、ノンフィクション作家の吉岡忍が読む。	○
104	藤沢周平の世界 22	朝日新聞社・2007	写真集	朝日ビジュアルシリーズ 週刊「藤沢周平の世界」について―藤沢周平が残した作品の内、代表的なものを取り上げ、ビジュアルな30冊に編集したものである。義民が駆ける・幕命を覆した農民一揆―江戸時代天保期の歴史的事件を題材にした「義民が駆ける」で、藤沢が描いた「歴史」と「政治」を、歴史学者の成田龍一が読み解く。	○



	本の題名	発行	備考	内容	蔵書
105	藤沢周平の世界 23	朝日新聞社・2007	写真集	朝日ビジュアルシリーズ 週刊「藤沢周平の世界」について―藤沢周平が残した作品の内、代表的なものを取り上げ、ビジュアルな30冊に編集したものである。喜多川歌麿・絵草紙・日暮れ竹河岸―浮世絵を彩る女たち。藤沢周平が喜多川歌麿に託したものは、表現者としての覚悟だった。ノンフィクション作家の後藤正治が明らかにする。	○
106	藤沢周平の世界 25	朝日新聞社・2007	写真集	朝日ビジュアルシリーズ 週刊「藤沢周平の世界」について―藤沢周平が残した作品の内、代表的なものを取り上げ、ビジュアルな30冊に編集したものである。密謀―戦国の智将・直江兼統。史実と虚構の融合という難題に挑んだこの意欲作を、作家で翻訳家の常盤新平が読む。	○
107	藤沢周平の世界 27	朝日新聞社・2007	写真集	朝日ビジュアルシリーズ 週刊「藤沢周平の世界」について―藤沢周平が残した作品の内、代表的なものを取り上げ、ビジュアルな30冊に編集したものである。市塵・稀代の政治家、新井白石―新井白石という実用的な人物は、藤沢周平には不向きではないか。そんな筆者の予想は、「藤沢節」によって見事に裏切られた。自伝「半生の記」をヒントに、編集工学者の松岡正剛が藤沢周平の創作を考える。	○
108	藤沢周平の世界 28	朝日新聞社・2007	写真集	朝日ビジュアルシリーズ 週刊「藤沢周平の世界」について―藤沢周平が残した作品の内、代表的なものを取り上げ、ビジュアルな30冊に編集したものである。春秋山伏記―山伏が村にやってきた 村にやってきた山伏の大驚坊を中心に、子持ちの寡婦やもぐりの山伏、箕つくりの夫婦といった登場人物に込められた、藤沢周平の眼差しを立松和平が読み解く。	○
109	藤沢周平 志たかく情けあつく	新日本出版社・2007/新船海三郎		ひとり行く小道は―作家の軌跡と「白き瓶 小説長塚節」、国の本は民にあり―上杉鷹山と新井白石と、ふるさは遠くに、近くに―「又蔵の火」から「臍臍曲がり新左」へ、転機は春の日差しに似て―市井の武家・青江又八郎、俗性の詩人・一茶、愛あり友ありて人生―「海鳴り」「蟬しぐれ」「三屋清左衛門」の10作品を取り上げている。	○
110	無用の隠密	文春文庫・2009	短篇集	人に恐れられる隠密という存在も、巨大な組織からすれば卑小な歯車に過ぎない―。命令権者に忘れられた男の悲哀を描く表題作ほか歴史短編「上意討」、悪女もの「佐賀屋喜七」など、作家デビュー前に書かれた15篇を収録している。	○
111	父・藤沢周平との暮らし	新潮文庫・2009		幼い日、会社勤めをしながら、男で一つで子育てに奮闘した父。育ての母を迎え親子三人が川の字になってテレビを見ながら寝た夜。娘の心に深く刻まれた「あいさつは基本」「自慢はしない」「普通が一番」という教え。藤沢周平の素顔を、愛娘が暖かい筆致で綴る。	○
112	乳のごとき故郷	文芸春秋・2010	エッセイ・自伝	このエッセイ集は、子供時代、ふるさとの風景、忘れられない味、父の血・母の血、友と恩師、変わりゆく故郷、詩二篇からなる。	○
113	藤沢周平を読む	新人物往来社・2010		巻頭対談、藤沢周平の魅力、藤沢周平論、藤沢作品の読み方・味わい方、名作再録/藤沢周平・上意改まる・長門守の陰謀・振り子の城(長門守の陰謀以外は文庫本にはない)、藤沢周平完全年譜で構成される。	○

	本の題名	発行	備考	内容	蔵書
114	藤沢周平 父の周辺	文春文庫・2010		「オバQ音頭」誘われていった夏の盆踊り、公園でブランコを押してもらった思い出---「この父の娘に生まれてよかった」という愛娘が、作家・藤沢周平と暮らした日々を綴る。	○
115	帰省・未刊行エッセイ集	文芸春秋・2011	エッセイ・自伝	エッセイ集の周平独言・小説の周辺・ふるさとへ廻る六部は、の三編は全集23巻に収録。半生の記:自伝的エッセイは全集25巻に収録。	○
116	藤沢周平 とっておきの十話	大月書店・2011		没後14年がたち、母方の親戚にあたる澤田勝雄氏がまとめ、藤沢周平夫人・小菅和子さん、愛娘の遠藤展子さんの寄稿を含む。とっておき十話、政治と文学、私の見た藤沢周平の三章からなる。	○
117	初つばめ	実業之日本社文庫・2011	短篇集	深川の小さな料理屋に務める長屋住まいのなみ。両親を亡くしてから親代わりとなり面倒を見てきた弟の友吉が、嫁になる相手連れて挨拶にやってくる。幸せな気持ちで出迎えたものの、高価そうな身なりの二人を見て心が乱れ・・・庶民の哀歌を描く10篇。	○
118	甘味辛味	文春文庫・2012		藤沢周平が作家になる前、「日本加工食品新聞」編集長時代に書いたコラム「甘味辛味」から70篇を収録。当時の同僚、仲間取材した徳永文一氏による伝評も合わせた文庫オリジナル。	○
119	わたしの藤沢周平	NHK「わたしの藤沢周平」制作班 編・2012		没後10年に当り放映されたテレビ番組で、各界で活躍する39人が語った「私の好きな藤沢周平作品」を、余すところなく収録。文庫オリジナル「全著作・映像作品リスト」付。	○
120	「海坂藩」のふるさと	鶴岡市立藤沢周平記念館・2015	写真集	開館5周年記念特別企画展「海坂藩」のふるさとを開催した。「海坂藩」は江戸時代の荘内地方がモデルとされ、武家もの小説に「海坂藩」と明記されたものは14篇、明記はないが情景が彷彿する小説は合わせると85篇となる。読者が「海坂藩」の情景を心の中に思い描くための一助になればとの思いからの企画展である。古地図・古写真を見ながら「海坂藩」を心に刻む参考にした。	○
121	作家 藤沢周平の誕生	鶴岡市立藤沢周平記念館・2015	写真集	開館5周年記念特別企画展「作家 藤沢周平の誕生」を開催した。自身が語る「到達点ではなく出発点になった」直木賞受賞前後の初期作品の魅力と創作過程の一端を、藤沢周平の人生も踏まえて紹介している。直木賞受賞後に作品の出版に関わり親交のあった7人の編集者が思い出を語っている。藤沢周平を身近に感じを一助になろう。	○
122	いまこそ読みたい藤沢周平	宝島社・2017		藤沢周平没後20年を経てまとめられた。小説63作、エッセイ6作、映像55作がまとめられている。	既読
123	藤沢周平のこころ	文春文庫・2018		惜しんでも余りあるこの作家。その生涯と作品、魅力のすべてを語りつくす愛読者必携の藤沢周平文芸読本。弔辞から全作品リスト、未公開写真までを収録した。	○

	本の題名	発行	備考	内容	蔵書
124	藤沢周平と練馬展	練馬区立石神井公園 ふるさと文化館分室・ 2018	写真集	藤沢周平生誕90年を迎え、藤沢周平と練馬区とのつながりに焦点をあてた展覧会が開催された。練馬区時代はどのような日々を送ったのか、大切にしていたことは何だったのか。作品とは違う人間藤沢周平を感じられるプライベートな写真とともに、藤沢文学の源を感じられる構成となる。	○
125	藤沢周平 「人はどう生きるか」	悟空出版・2018		藤沢周平没後二十年・生誕九十年に合わせて企画された、若者たちの挫折と自立を描く「成長物語」で「蝉しぐれ」他8篇、悲哀と不条理の人生にもある一筋の「光」で「はしり雨」他6篇、残照を浴びて晩年の生きがいを探すで三屋清左衛門残日録他5篇の文庫解説が収められている。	○
126	絆を紡ぐ/女は、何のために生きるのか。	新潮文庫・2020		人情時代小説傑作選として、意気地なし/藤沢周平・仲秋十五日/滝口康彦・春いくたび/山本周五郎・お江さま屏風/永井路子・夫婦の城/池波正太郎の5篇を網羅している。	○